

令和2年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

第3回急変時対応部会を開催しました



○2月5日（金）18：30～第3回急変時対応部会をWeb開催しました。参加者は、部会メンバー8名と在宅医療推進センターコーディネーター1名、事務局5名でした。

○今回は、介護保険事業所等、医療機関、消防署（救急隊）を対象に実施した「高齢者の急変時における対応の実態調査」の回答を基に、調査結果の共有や意見交換を行いました。

【アンケートの内容・回答(抜粋)】

○介護保険事業所等

(278/476事業所 回答率：58.4%)

「急変時や救急搬送に際し、困ったことはありますか」(はい：71.2% いいえ：28.8%)

「急変時に備え、意向を確認していますか」(はい：81.8% いいえ：18.2%)

「救急車への同乗に関して困ったことはありますか」(はい：43.4% いいえ：56.6%)

<自由記載>

- ・家族やケアマネジャーと救急要請の判断を決めている。
- ・確認した意向は事業所内で共有している。
- ・救急車に同乗すると職員体制が手薄になる。

○医療機関

(41/106医療機関 回答率：38.7%)

「救急搬送の受け入れに際し、困ったことはありますか」(はい：29.3% いいえ：70.7%)

「救急キットは知っていますか」

(はい：43.9% いいえ：56.1%)

<自由記載>

- ・本人の意向が分からないことが多い。
- ・本人・家族・ケアマネジャー・主治医を含め、定期的に急変時の対応を話し合うことが必要だと思う。

○消防署(救急隊) (8/8 消防署 回答率：100%)

「救急搬送に際し、困ったことはありますか」

(はい：100% いいえ：0%)

<自由記載>

- ・救急キットの情報が更新されていない。
- ・本人と家族の意向が一致していない。

【意見交換】

- ・回答率の高さや自由記載の内容から、それぞれの立場での「高齢者の急変時における対応」に対する思いや不安があることが分かり、意味がある調査だった。
- ・率直な意見が多く、これを分析していくことで多くの課題が見えてくると感じた。
- ・救急キットの内容や取扱いを見直し、活用や周知が進むと良い。
- ・「急変」の定義が立場によって異なり、捉え方に差があるのではないか。
- ・介護保険事業所等の回答から、急変時の対応においてケアマネジャーの負担が大きいということが垣間見られた。

【次年度の取組について】

- ・調査結果の分析を進め、上越地域が抱える急変時の対応に関する課題を整理する必要がある。
- ・本人や家族の意思表示及び意向の確認に関する課題については、市民啓発部会や対人援助スキルアップ部会とも共有し、連動した取組を行う。

※実態調査結果の詳細は、改めて報告いたします。